

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 5 年度 第 1 回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会 議事録</p>						
日時	令和 6 年 3 月 2 6 日 (火)		開会	午後 1 時 4 5 分		
			閉会	午後 3 時 1 5 分		
場所	市民総合体育館 3 階 多目的室					
出席者	委 員	佐賀委員	本木委員	堀川委員	寺島委員	田中委員
		○(代理)	欠	欠	欠	○
		林委員	細野委員	野本委員	松田委員	柳原委員
		○	欠	○	○	○
		藤井委員	藤野委員	武田委員	鈴木委員	小日向委員
		○	○	○	欠	○
	事 務 局	子育て支援課長、学校教育課長、子育て支援課副課長、 子育て支援課主査、子育て支援課主任				
公開・ 非公開	公開 (傍聴者なし)					
議 題	1 開 会 子育て支援課長 2 委員自己紹介 3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について 4 会長及び副会長の選出 5 会長あいさつ 6 意見交換 7 事務連絡 8 閉 会					

議 事 内 容

1 開 会 子育て支援課長

2 委員自己紹介

3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について
～事務局より説明～

4 会長及び副会長の選出
会 長 高橋 千代子 委員
副会長 寺島 直子 委員

5 会長あいさつ

6 意見交換

【会 長】各委員の皆様それぞれのお立場から、現在の活動内容や現在課題になっていること、また日頃からいじめ問題に対して感じていることなどのお話をお願いします。その後、お話いただいた内容について、質問や課題に対してのアドバイス、または感想などの意見交換をしていただきます。

【委 員】いじめにつながるような場面としては、人とコミュニケーションが苦手な生徒がおり、その生徒に対して複数人の生徒がからかいや、冷やかし等がエスカレートしていってしまいました。加害生徒を呼んで注意しましたが、見えないところで続いてしまっていました。

スクールカウンセラーや保護者の方と連携を取って対処することや、入学する前にその生徒や加害生徒の細かい情報を得て、クラス編成等で配慮ができていれば、違う形になっていたのかなと感じております。

いじめに関するアンケートを学期に1回、年に3回実施しており、いじめを訴えてきた場合には、その都度担任や生徒指導部でその子を呼んで、解決ができるように働きかけ、加害生徒にも注意をしています。

【委 員】小学生や中学生に朝のあいさつとかで声をかけていますが、今の小学生は静かで、中学生は少し賑やかかなという感じです。

簡単にはいかないと思いますが、先生方が支えながら、いじめがなくなるようにできることが望ましいと思います。

【委 員】約25年前は中高生の犯罪が多くありましたが、今は少なくなりました。犯罪をした中高生は、愛情にすごく飢えていて、親に自分のことを認めてもらえていないと思っていて、話したくてしょうがなくて、話を聞いてあげると本当に喜びながら話します。

いじめに関しては、いじめをする人がいけないのは当然ですが、学校全体で話し合いをするなどし、解決策を見つけていければいいと思います。

【委 員】子どもたちが何か悩みがあったら書いて投函できるSOSミニレター、があります。私自身は、いじめに関してあまり携わったことは無いのですが、深刻な問題の場合は法務局や教育委員会など関係機関と連絡調整しながら、解決に向けて活動することがあります。

子どもたちに命の大切さや人を思いやる気持ちを身につけてほしいという願いで啓発活動をしており、学校からの依頼で人権教室を行っていま

す。また、花を各学校に届けて一緒に植えて命の大切さを学ぶ活動や中学校にご協力いただいて、人権作文コンクールを実施しています。

【委員】いじめのない学校なんてないと思います。原因は親であると思っています。「〇〇ちゃん、〇〇くんダメよ」、これは怒ったことにならないので、怒られない子どもは調子にのります。

先日、ある中学校では暴力までいったいじめがありました。加害者側は、小学生の時にはいじめられていて、中学生になったら立場が逆転したようです。先ほどの説明で重大事態が発生した場合という話がありましたが、その前にもっと学校に踏み込める力がないと、抑えることは難しいと思います。

ある小学校では、先生も怒れない状況となっています。また、今は先生もいじめの対象となっています。

【委員】私は、いじめ防止サポーターもやっていて、みんなで年度の始めに呼び名を、なんて呼ばれたいか、呼ばれたくないかと話し、呼ばれたくない呼び名では呼ばないようにし、呼ばれたい呼び名を掲示しています。

また、わかりやすい言葉でバカとか死ねとかこれを言われたらいやだな、反対に言ったら温かくなるなという言葉が掲示することや、動画や本を使用して、いじめのことをみんなで考える機会を設けています。

さらに、学期に一度、いじめられたらどう思うかを感じてもらうために、子どもたちにも役をやってもらう寸劇をしています。

子どもたちの表情の読み取りや話を聞くことも必要だと思いますので、まずは相談してもらえ関係づくりを目指しているところです。

課題になりますが、いじめの子どもたちの捉え方が、これをやったらやり過ぎとか、そういうところがわからなくなっていると思います。SNSが普及し、ゲームでつながり、気に入らないから、その子だけゲームから外していくことが、小学校中学年ぐらいから始まっていて、危機感を感じています。

【委員】商業施設等の見回りや、広報、啓発活動をしております。毎年同じ時間同じ場所を見回りしていますが、子どもたちの姿が年々少なくなっています。一見、良いことかなと思いますが、SNSで友達とつながって、コミュニケーションをとり、会わずに済んでしまっていることが原因ではないかと思っています。私たちがさまざまな事象を未然に防ぎたいと思いますが、直接会うことができないという状況が課題となっています。

【委員】いじめの相談は年に2～3件ありますが、その中で暴力事件であれば刑事事件になります。大事にしたい方もあるので、その際は加害者を呼び出して注意・補導という形になります。SNSで無視されるなどのいじめは相談機関を紹介していますが、最近は保護者の方も被害者意識が強いこともあり、自分の子どもがちょっかいを出しているのに、被害者だという方もいます。

【委員】大きく二つの対応をしています。一つは生徒指導、もう一つは教育相談、です。生徒指導につきましては、子どもの色々な非行も含め、未然に防止するもので、教育相談につきましては、実際にそういったことが起きた場合に保護者や子どもの訴えをもとに、学校と連携して解決に動くというような対応です。

いじめのない学校づくり子ども委員会では、同じ中学校区内の小中を代表して児童・生徒が集まって、いじめをなくすためにどうすればいいかを年に一回話し合い、その話し合いをもとに各校で実践していく取り組みをしています。具体的には、いじめをする側からの視点、いじめをされる側の

視点、そしていじめをしてもいないし、されてもいないけど知っていて傍観をする側の視点、それぞれの視点をもとに考えさせて、どうすればなくなっていくのかというものを、子どもたち自身が考え、考えた取組みを実践していくというようなことをしています。

また、自分がどうやって生まれてきたか、誰に望まれてきたか、その生まれてきた奇跡というのはいくらすごいことなのか、それによって自分は必要な一人の人間であること、それを理解させていくことを目的に、命の授業を行っています。

実際には、子どもはやってみて良いことと悪いことを知ります。要は小学校低・中学年の世代だと加減を知らないでやった結果、注意され、これが悪いことだと初めて学んでいく。その中でいかに加減を教えていくかが現場教員の役割だと思いますので、現場を見つけた段階ですぐに声をかけ、それは良いこと悪いことを考える心づくり、それから、やられそうになった時の対処の仕方、助けの求め方などの対応力、そして、他者に頼るのもいいけれども、自分の力で解決していく方法を教員が見極めて対処・指導できるかがポイントだと思います。

いじめは、学校だけで収まる話ではなく、地域や社会全体で取り組んでいかなければいけないことです。学校で教員が見つけて指導するだけではなく、地域でも見つけた段階で知らない大人が声をかけることが大切であると思います。

最後に、いじめをなぜ行うかという背景として、発達の問題、家庭の問題、学力の問題など、色々な要因があって、その背景を含めて理解をし、解決していくことが必要であると思いますので、気づける資質、能力の向上に向けて取り組んでいきたいと思っています。

【委員】保育園や幼稚園の方から子どもたちの生活の中で起きた、ちょっとしたケガも含めてトラブルのお話を聞きますが、いじめの話はありません。それが小学校くらいになると、子どもたちのトラブルで保護者同士にまで発展してしまうこともあり、学校と連携しながらトラブルの解消に取り組んでいます。

先ほどSNSやゲームの話がありましたが、私が帰る時間に暗い中で、子どもたちが集まってゲームをしています。楽しそうにしている日もあれば、下手くそだなと言っている日もあります。下手でみんなについていけなくなると、仲間から外されてしまい、結果としていじめにあってしまうのかなと思います。ただ、その子たちが翌朝、登校班で仲よく行っているの、温かく見守ってほしいと、日々感じているところです。

【会長】それぞれの立場から現状や対策などのお話しいただきましたけれども、付け足しや聞きたいことがありましたら、お願いします。

【委員】人とコミュニケーションが苦手な生徒をいじめていた側の子には何か処分があったのですか。

【委員】学校からの注意という形になったのですが、注意くらいだとあまり意味がありませんでした。最近では、注意するのにも言葉遣いに気を使う必要があって、指導する時に厳しい言葉や大きな声でできない中で、諭すように指導することが多いです。生徒との関係性ができていないと、話がまったく入らないので、私はまずその生徒と関係性を作ってから、話をするようにしています。厳しくしてしまうと逆に反発をして言うことを聞かない生徒が多いです。

【委員】今この協議会の中で、いじめに対する認識を揃えた方がいいと感じました。小中学校でのいじめは、結構な数がありまして、嫌だ、つらいがいじ

めの件数となっています。些細なことからまず認知をし、解消していく流れがあります。いじめの重大事態は、自殺とか自傷行為に至る前でも、要因が複数絡んでいて本人がつらい思いをし、欠席が30日を超えたら、全部重大事態として扱うこととなりますので、そこら辺の小中学校に対するいじめの認識はご理解をいただければと思います。

【委員】ある小学校でいじめがあり、主犯格の子は親も呼ばれましたが、親が子どもを信じきっている状況です。子どもは嘘をつくので、自分はどんな状況でも子ども半分、相手半分しか聞かないようにしています。

学校から注意された主犯格の子の親が、自分の子を守るために、一緒にいじている子の親といじめられている子が悪いと言い始めました。多数の意見で言われると、先生は見抜くことが難しいと思います。いじめられた子が学校に行かなくなる前に学校や教育委員会で何とかしてもらいたいです。学校から教育委員会に話しを上げると、処分の対象になるのですか。

【委員】処分等はありませんが、どんな解決の仕方をするのか、そのプログラムを学校に提案させるか、教育委員会が提案し、学校が解決に向け動きます。それでも収まらなければ教育委員会が介入していくというような流れになると思います。

【委員】教育委員会に話しを上げることは、学校の先生にとって、自分のマイナス点になると思いますが、上げてもらわないと解決できないこともあります。

【委員】今のいじめ問題の課題の一つが家庭です。家庭でわが子の指導が十分にできていない場合があります、いじめをする子は、何か満たされていないものがあるか、家で厳しくされ過ぎていて、はけ口を学校に求めている可能性があります。その歪んだ部分を確認することと、家庭の対応の仕方として、わが子を信じるのも半分、信じないのも半分、自分に都合のいいことだけを切り取って話すのが子どもですので、その部分をわきまえて寄り添っていきながらも、他の周りの意見も聞いていけるというバランス感覚を、親自身がつけていく必要があると思います。

【委員】対象者の子どもの話を聞くことに専念すると、家のことなどをよくしゃべってくれます。何か家庭内に問題があるようでしたら、その子どもを呼んで、聞くことに専念すると、色々なことを話してくれると思います。

【委員】いじめられている子の保護者には、味方はいるのでしょうか。

【委員】味方はいます。その家も明日はいじめの対象になるのではないかと心配しています。

【委員】先生ではなく、スクールカウンセラーの方などなら、子どもも自分の思いを話すことができるのではないかと思います。

【委員】新任教員などは経験が足りず、ベテランの先生に相談すれば解決できることもあるので、担任だけでなく複数の教員に話すのも良いと思います。

また、子どもを信じる危険性、子どもを信じない危険性、まずは寄り添って聞くことを認識することが必要です。子どもが嘘をついたことや、何かばつが悪そうなところに気づけないと問題が大きくなってしまいます。

【委員】自分の子どもが嘘をついたらわかりますが、人の家の子はわからないかもしれないですね。

【委員】学校では、保護者の啓発が難しいのが現状です。学校から保護者に間違っていますと伝えると、その後の伝えたいことが伝わらなくなるので、寄り添いながら対応することが一般的です。

いじめってどこから始まるのか、子どもとの信頼関係や、子どもがどうやって成長していくのかなど、保護者が学ぶ場をPTAではなく地域が主導になってやれると良いと思います。

【委員】現在登校していて、先生に話しているので、とりあえず静観です。

【委員】いじめられている側の味方ができるような働きかけもできると良いと思います。

【会長】ありがとうございました。子どもの生活の中でつらいことがあるのであれば、保護者や地域の方が支えていければ良いと思います。

【委員】学校が荒れている場合は、スクールサポーターという、県警OBが週に何回か、授業中に見回りするような制度もありますので、検討いただくのもいいのかなと思います。

【会長】SNSの普及で昔と違ういじめの問題も出てきているようですが、どのようなことがあるのでしょうか。

【委員】先ほど紹介した、いじめのない学校づくり子ども委員会では、SNSを利用したいじめについても話し合っています。感情のコントロールができないことから、ゲームでの勝ち負けや、妬みから誹謗中傷が始まるというのを聞きます。小学生から、スマートフォンを持っている子どもたちで連絡を取り合っていて、中学生は見えない部分が多く、問題が発覚した時には大事になっていることが多いです。

【委員】高校生でもSNSでの問題は多く、それからいじめにつながるようなことも多いです。何かが発覚する時は、仲がいいグループでやっている情報が、他にもれてトラブルになるケースが多いです。

【委員】中学生のクラブチームでは、SNSでの拡散が大問題になって、SNSに対しての授業をやりました。

【委員】学校でも注意喚起とその怖さを教えていますが、最初は悪気も無く、ささいなことから、枝葉がついて大きな問題になっていって、いたちごっことなっています。

【委員】隠していることをSNSに投稿したことで、直接ではなく回ってきて発覚することがありました。そこから発展していじめに繋がることもありますので注意が必要です。

【委員】最初にいじめをする背景で学力も関係すると話しましたが、学力とは国語や算数ができる力ではなく、模索する力のことです。これをやればどうなるかという未来を見る力が、弱すぎる子が多いです。生きた学力は、色々な経験や知識が必要ですが、今の子どもたちはそれを全部止められて、痛い目にあって初めて気づく。人を殴ったらいけないのは当たり前ですが、殴られたことがないから、殴られる痛みを知らずやりすぎちゃうのです。SNSでの問題も同じことが言えます。

【会長】ありがとうございました。子どもたちの現状と模索する力の不足から、やはり大人の見守りが必要だなと感じました。

本日の議題は以上とさせていただきます。

7 事務連絡

次回の協議会の日程：未定

8 閉会